

清水 哲郎 (しみず てつろう)

東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター
上廣(うえひろ)講座 特任教授

東京大学理学部天文学科卒業(1969)後、哲学を志し北海道大学助教授、東北大学教授を経て、2007年度より現職。文学博士。

日本医学哲学・倫理学会、日本生命倫理学会、緩和医療学会、日本哲学会、日本倫理学会理事等を歴任。専門分野は、元々は中世哲学・キリスト教思想史であった。

加えて、80年代後半から、医療の専門家と対話しつつ進める〈医療現場に臨む哲学〉を試み、現在は臨床倫理学と臨床死生学の交差する領域で実践的研究を進め、また、医療から介護へとフィールドを広げつつある。

著書に『医療現場に臨む哲学』、『臨床倫理ベーシックレッスン』（石垣と共著、看護協会出版会）、『最期まで自分らしく生きるために』（NHK 出版放送テキスト）など。

最近では、日本老年医学会がこの6月に公認した、高齢者の人工的水分・栄養補給の導入をめぐる意思決定プロセスガイドラインの原案とりまとめを担当。本人・家族のためのプロセスノートを並行して作成している。

ホームページURL：<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~shimizu/index.html>

主宰する臨床倫理プロジェクト

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/cleth/index-j.html>

渡部 律子 (わたなべ りつこ)

1976年関西学院大学社会学部卒業。1978年同大学大学院修士課程修了。1982年米国ミシガン大学大学院に留学。1983年社会福祉学修士(M.S.W.)。1988年心理学修士。1990年哲学博士(Ph.D. 専攻:社会福祉学 心理学)。この間、日米両国で臨床実践。ニューヨーク州立大学バッファロー校、シカゴ大学社会福祉系大学院で教鞭をとる。ソーシャルワーク援助理論技法、調査法 研究法、老年学を教えるとともに、老年学専攻の修士学生の実習指導および論文指導を行う。1995年関西学院大学総合政策学部助教授。1999年、関西学院大学総合政策学部教授。専門は、高齢者福祉、家庭福祉、ソーシャルワーク援助技術論、ストレスコーピングとソーシャルサポート理論、対人援助職者の教育 スーパービジョン 職務満足、ケアマネジメントなど。